



布施だより

《 西中応援隊～信州型コミュニティースクール 》

平成 29 年度から、県内小中学校で「信州型コミュニティースクール」を設置することになっています。これを受け本校では、教務会・職員会を中心に検討してきました。「信州型コミュニティースクール」とは次のような運営形態をいいます。

◇信州型コミュニティースクールの趣旨

信州教育再生に向けて、①学校運営参画 ②学校支援 ③学校関係者評価 を一体的に実施する「信州型コミュニティースクール」を構築し、学校と県民の協働による地域に開かれた信頼される学校づくりを推す。

◇信州型コミュニティースクールの要件

学校支援ボランティアを組織化し、1～3の要件を満たす運営委員会を設置する。

- 1 3つの機能を一体的に行う会議
 - (1) 学校支援についての意見交換
 - (2) 学校運営についての意見交換（目指す子どもの姿や、重点目標、課題への取り組み等）
 - (3) 学校関係者評価
- 2 年間複数回の開催
- 3 委員としてのボランティアの代表、または地域のコーディネーターの参加

この要件を受けて、本校として現時点では「信州型コミュニティースクール」を次のようなイメージで捉え、進めていこうと考えています。

◇地域の方に「学校に入っただく」ことで、生徒のより良い成長につなげる。

◇地域の方々が生徒の成長に関わることで喜びを感じていただく場とする。

◇地域の方々が学校を拠点にしてつながっていく。（地域コミュニティの拠点）

そして、篠ノ井西中学校の「信州型コミュニティースクール」立ち上げの第一歩は「潤いのある学校環境作り」に関する学校支援ボランティアからスタートします。生け花や地域の方々の絵画作品、書写作品等の展示スペースを作り、その中で行われる地域の方と生徒との自然な形での関わりが生徒のどのような育ちにつながるのか、あるいはどのような可能性があるのか、を模索しながら

第一歩を踏み出したいと考えています。学校支援ボランティアとして参加していただける皆さんを「西中応援隊」と名付けさせていただき、「西中ミュージアム」に作品を展示していただくこととなりました。

早速「西中応援隊」として、中川詔子さん（生け花）に続いて、武井才子さん（和紙ちぎり絵）が参加してくださり、作品を飾ってくださっています。学校中に、生徒玄関に「西中ミュージアム」が少しずつ創られていきます。そんなお二人の感想です。「とってもいい生徒さん達です。『こんにちは』は当たり前で、『いつもありがとうございます。』『きれいな花ですね。どこのお花ですか。』などと話しかけてくれます。また膝をついて雑巾がけをしていたり、流しも底だけでなく目の行き届かない側面も丁寧に磨いていたり、掃除を一生懸命にしている姿に感動しました。」「直に子どもたちと触れ合うのが嬉しいです。生徒さん達から元気をいただいています。」

これから「西中応援隊」として、本校の「信州型コミュニティースクール」にご協力いただける皆様は中学校までご連絡いただければ幸いです。よろしくお願いたします。



《 春はあけぼの 》

30日（金）国語科の授業です。学習課題「どんな書き方をすれば、相手に共感してもらえるだろう～枕草子の特徴に注目したり、友の意見を聞いたりして、表現や構成を工夫してみよう～」です。「春はあけぼの」で始まる序段の「春・夏・秋・冬」をテーマに沿ってリライト（書き直し）した作品を読み合い、感想を伝え合う追究です。生徒達は授業のスタートに、先生から1時間の見通しが伝えられます。生徒は1時間のゴールを自覚しながら、安心してリライトの追究に向かいます。「ユニバーサル・デザイン」仕様の追究が、正に支援として見られます。生徒達のテーマは「食べ物」「植物」等々です。そして15分間の追究は、書いては消し、また書いては消し、とより共感してもらえる作品を求めてのものでした。そして書き上げたリライト作品が「春は桜。木をうめつくす満開の桜は言うべきにもあらず。風に吹かれて散っていく桜の花びらもをかし。夏はひまわり。始めは上を向いているひまわりいとをかし。夏の終わりとともに、下を向いていくひまわりからは寂しさを感じる。秋はもみじ。木を紅色に染めるもみじは、秋の魅力。また散



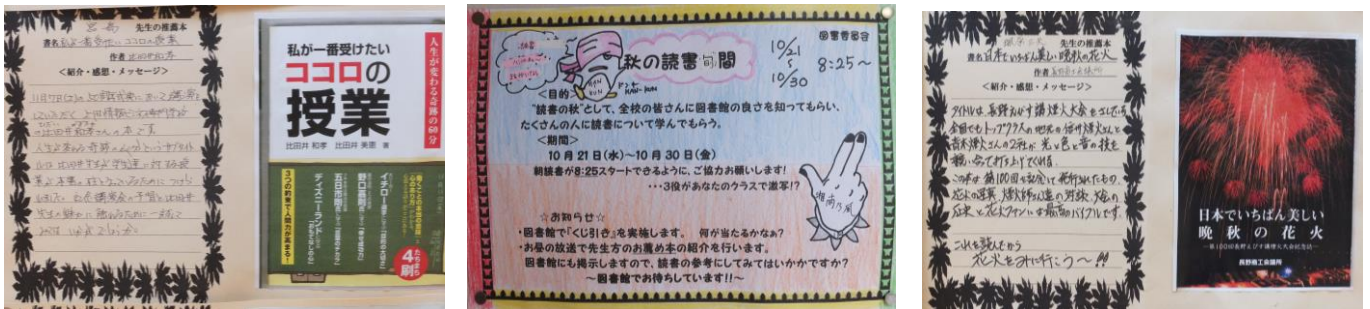
った紅葉川を赤く染めるのも秋の魅力である。冬は雪が積もらせた木。白い花を咲かせたような木、風が吹けば積もった雪が散る。まるで白い花びらが散ったようで、とてもきれい。雪が溶けてなくなるのはわろし。」です。この授業の工夫は付箋の活用による交流です。生徒達は仲間の作品に関わって「共感」を付箋に記し、伝えていきます。「それぞれの花の良さを表現できているのが魅力的です。」「植物の様子を『をかし』を使って表現しているのがいいと思います。」「・・・伝え合う観点を「共感」としたところに、この交流の妙味があります。いかに「ナルホドナァ～」と頷いてもらえるか、しつとりと古典を味わい、表現しながらの時間が流れていました。

《 読書週間 》

図書委員会の諸君が秋の読書週間の活動を展開してくれています。図書館廊下の、先生方お薦めの言葉を、生徒たちが目を懲らして楽しそうに読んでくれています。図書委員の皆さん、ありがとうございます。「感動・喜び・興味」をキーワードに読書の効用を伝えた文章をどうぞ。

感動や喜びや興味を感じるだけの読書は、物足りないように思われるのだが、どういう感動や、喜びや、興味を感じるかということ、何十回、あるいは何年も繰り返すことによって、それぞれの人間の心がつられていくのである。温かい心の人、清らかな心の人、豊かな心の人等々、といった人の心は、どういうものに感動し、どういうものに喜びを感じ、どういうものに興味をもったかの繰り返しがつくるのである。

椋鳩十 ～手段としての読書、価値としての読書～



《 初冬の大収穫！ 》

- <男子バレーボール部> 市中学校新人体育大会 11月1日(日)
 <1日目：予選トーナメント>
 対附属長野○2-0 対東北●0-2 対北部●0-2
 <2日目：13位～16位決定戦>
 対信濃・飯綱●0-2 対篠ノ井東○2-0 15位で北信大会出場
- <女子バレーボール部> 市中学校新人体育大会 11月1日(日)
 <1日目：予選トーナメント>
 対戸隠○2-0 対東部○2-1 対若穂●0-2
 <2日目：13位～16位決定戦>
 対北部○0-2 対豊野●2-0 7位で北信大会出場
- <剣道部> 北信大会 11月1日(日)
 <女子団体> 予選リーグ2位
 決勝トーナメント1回戦惜敗 北信ベスト8
- <作文> 青少年健全育成コンクール
 優良 1年 富岡萌々子さん「家族への感謝」
 優良 1年 石坂愛菜さん「家族への感謝」
 優良 2年 橋爪駿介さん「家事は母の仕事なのか」



《 50周年記念式典 ～♪ 中学生らららら ♪～ 》

11月7日（土）に「篠ノ井西中学校創立50周年記念式典」を迎えるにあたり、「記念事業実行委員会」の皆様を始め、PTAの皆様、地域の皆様、関わっていただいた全ての皆様に心より感謝申し上げます。

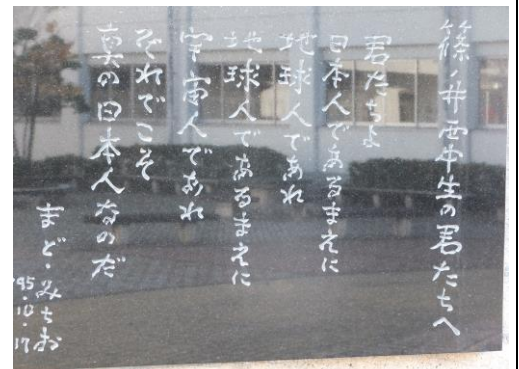
より良い式典を目指し、何度も会合を開催し検討を重ねていただき、多くのご寄付をお寄せいただき、広い地域にチラシを幾度も配布していただき、資源回収にご協力いただき、等々・・・これら全てのご協力に感謝しつつ、式典を迎えることができました。50年の歴史を振り返り、また新たな51年を皆様とお祝いできることに重ねて御礼申し上げます。

記念誌に寄せていただいた実行委員長の鳥羽裕子さんの文章（抜粋）をお伝えします。



・・・50周年を迎えるにあたり、歴代会長より役員をとのことで、私から三代の会長が役員を仰せつかりました。何も分からず不安だらけでしたが、会議の度に先生方や役員の皆さんから「盛大なことはできないまでも心に残る記念事業に」という熱い思いに力をいただきながら進めてまいりました。西中らしい記念事業をということで、記念碑には校歌を作詞くださった、まどみちお先生から西中生へいただいた手紙を刻むことにしました。西中の精神は、まど先生の作られた校歌にあり、その先生がくださった手紙も西中の宝ですから。

「中学生らららら らららら中学生」他校の校歌のように校名も入らず、学校を称える言葉もなく、ただ子どもたち一人一人の若い力を称え、希望に満ち溢れた未来に向かい、力強く向かっていけ、と歌われています。50周年を迎えたこの学校で、校歌のように自らの力を信じ、無限に広がる未来へ羽ばたくことのできる西中学校生が育ち、新たな歴史を刻み、益々発展していかれることを願ってやみません。



記念事業実行委員長 鳥羽裕子さん
「記念誌～泉をくみあげて～」より

679名の生徒諸君は、今日も正々堂々と胸を張り前に進もうとしてくれています。そして式典当日、「中学生らららら」を精一杯の感謝を込めて歌います。



《 11月7日（土） 篠ノ井西中学校創立50周年記念式典 》

- 記念式典 8:50～ 9:10
- 記念講演会 9:20～10:50
- 記念演奏会 11:10～11:40

皆様のご来校をお待ちしております。